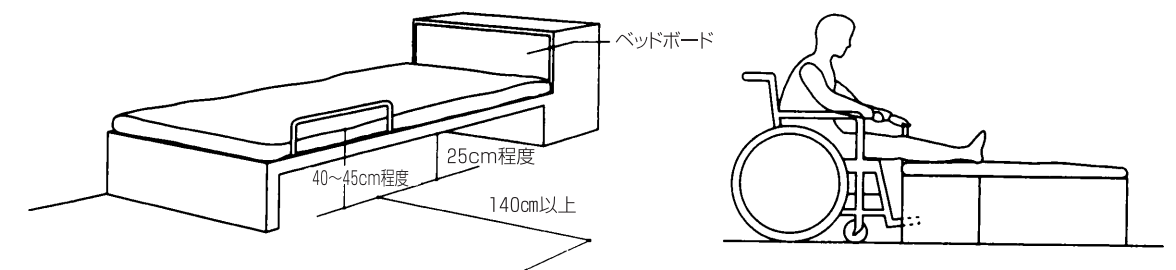
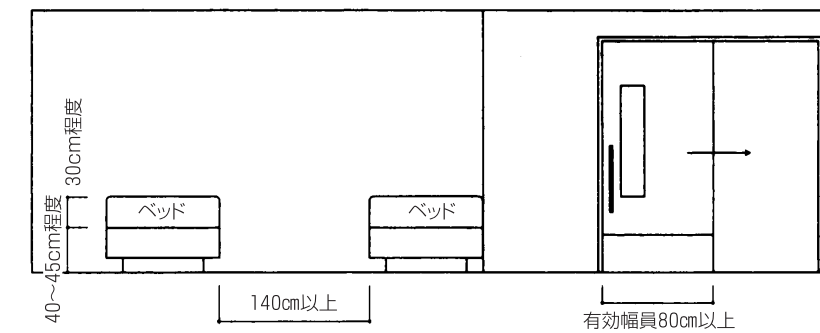
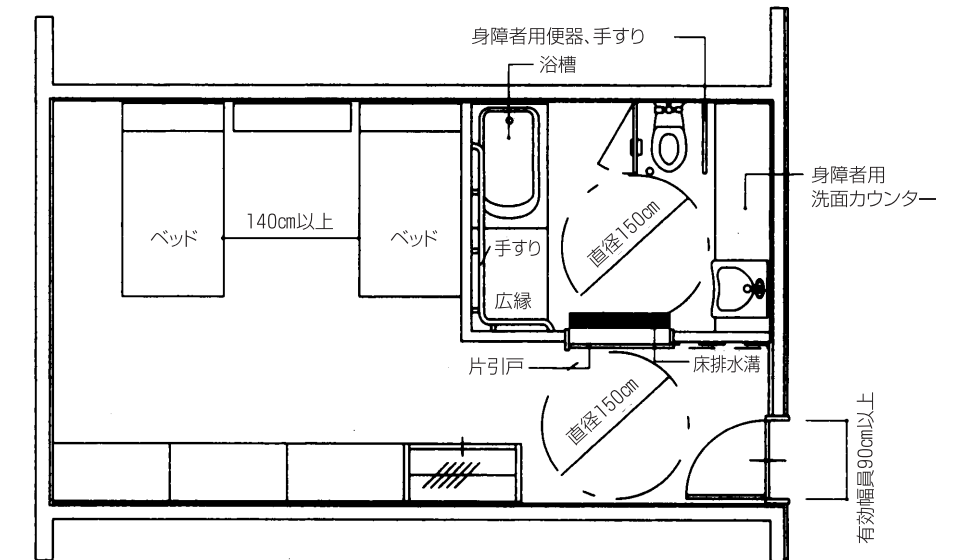


13 客 室

■基本的な考え方■

宿泊機能を持つ施設においては、車いす使用者等の利用に配慮するとともに、視覚障害者等が容易に情報を得られるように整備する必要がある。また、移動の困難性を考慮して、避難しやすい位置に設けるとともに、緊急時の対策にも配慮する。

客室の例



整備基準	目標となる指針
<p>13 客室</p> <p>1 宿泊施設(用途面積の合計が5,000平方メートルを超えるものに限る。以下この項において同じ。)には、次に定める構造の客室(宿泊用のものに限る。)を1以上設けること。</p> <p>(1) 車いす使用者が円滑に利用することができるよう十分な床面積が確保され、かつ、ベッド、手すりその他の設備が適切に配置されていること。</p> <p>(2) 6の項〔便所〕1((6)及び(9)を除く。)から3までに定める構造の便所を設けること。</p> <p>(3) 10の項〔共同浴室〕に定める構造の浴室を設けること。ただし、当該客室のある宿泊施設に10の項〔共同浴室〕に定める構造の共同浴室を設ける場合においては、この限りでない。</p> <p>(4) 洗面所を設ける場合においては、当該洗面所は、12の項〔共同洗面所〕に定める構造とすること。</p> <p>2 宿泊施設の客室(1に定める構造の客室を除く。)のうち、1以上の客室には、音、光その他の方法により視覚障害者及び聴覚障害者に火災その他の非常事態を知らせる非常警報装置を設けること。</p>	<p>13 客室</p> <p>1 不特定かつ多数の者が利用する宿泊施設の客室(宿泊用のものに限る。以下この項において同じ。)を設ける場合においては、次に定める構造の客室を客室の総数が、200以下の場合にあってはその総数に100分の1を乗じて得た数以上、客室の総数が200を超える場合にあってはその総数に200分の1を乗じて得た数に1を加えた数以上設けること。</p> <p>(1) 車いす使用者が円滑に利用することができるよう十分な床面積が確保され、かつ、ベッド、手すりその他の設備が適切に配置されていること。</p> <p>(2) 6の項〔便所〕1((6)を除く。)、3及び4までに定める構造の便所を設けること。</p> <p>(3) 10の項〔共同浴室〕に定める構造の浴室を設けること。ただし、当該客室のある宿泊施設に10の項〔共同浴室〕に定める構造の共同浴室を設ける場合においては、この限りでない。</p> <p>(4) 洗面所を設ける場合においては、当該洗面所は、12の項〔共同洗面所〕に定める構造とすること。</p> <p>2 不特定かつ多数の者が利用する宿泊施設の客室を設ける場合においては、音、光その他の方法により視覚障害者及び聴覚障害者に火災その他の非常事態を知らせる非常警報装置の設けられた客室(1に定める構造の客室を除く。)を1に定める数以上設けること。</p>

整備基準の解説

●整備の対象

用途面積の合計が5,000㎡を超える宿泊施設の客室のうちそれぞれ一以上の①車いす使用者、②視覚障害者・聴覚障害者等が利用できる客室を設ける。

○客室の出入口の内のり幅90cmは、車いすで通過しやすい寸法。

項 目	解 説
2 非常警報装置	○視覚障害者及び聴覚障害者が円滑に避難できるようにフラッシュ及びバイブレーターにより情報を伝達する装置を設けること。

目標となる指針の解説

- 整備の対象
不特定かつ多数の者が利用する宿泊施設に客室を設ける場合に客室の総数に応じた①車いす使用者、②視覚障害者・聴覚障害者等が利用できる客室をそれぞれ設ける。
客室の総数が200以下の場合:総数×1/100以上を車いす使用者が利用できる客室とする。
客室の総数が200を超える場合:総数×1/200+1以上を車いす使用者が利用できる客室とする。

○客室の出入口の内のり幅90cmは、車いすで通過しやすい寸法。

配慮事項		
項 目	解 説	
(1)出入口	○出入口前後に車いす使用者が直進でき、回転できるスペース(直径150cmの円が内接できる程度)を確保する。	
(1)スペース	○ベッド廻り、便所・洗面所・浴室には、車いすで移動・回転できるスペース(直径150cmの円が内接できる程度)を確保する。	
(1)ベッド	○車いすからの移乗のしやすさ、横になりたい時にすぐ利用できるか等の観点からベッド使用を基本とし、高さは、マットレス上面で、車いすの座面の高さ(40～45cm)程度とし、下部には車いすのフットレストが入るようにクリアランスをとる。 ○ベッドボード部については、高さはマットレス上面より30cm以内とし、ベッド上で寄り掛かりやすい形状とする。 ○ベッドの側面には、車いすの寄り付きを配慮して120cm以上のスペースを確保する。 ○介護を考慮してベッドは2以上設置する。	
(1)ベッドサイドキャビネット	○高さは、マットレス上面より10cm程度高くする。	
(1)照明	○ベッド上で操作できるものとする。	
(1)コンセント、スイッチ	○車いすでの使用に適する高さ及び位置とする。「配慮事項②コンセント・スイッチ類(P.86)」参照。	
(1)収納棚	○下端:30cm程度、上端:150cm程度、奥行き:60cm程度とし、下部には車いすのフットレストが入るようにクリアランスをとる。	
(1)電話機	○聴覚障害者用点滅灯付音量増幅装置や上肢の巧緻障害者用電話機を設置する。 ○聴覚障害者用にファクシミリ等を設置する。	
(1)床面	○歩行困難者にとっては、移動の支障となるばかりでなく、転倒等の危険があり、又車いすの操作が困難になるので、毛足の長いじゅうたんはできるだけ避ける。	
(1)点字表示	○視覚障害者に部屋番号がわかるように番号(算用数字)を浮き出したものにするか、点字で表示する。	